

最 も 美 し い 横 領 犯

「八日目の蟬」

「桐島、部活やめるってよ」

角田光代 × 吉田大八 × 宮沢りえ

# 紙の月

宮沢りえ 池松壮亮 大島優子 田辺誠一 近藤芳正 石橋蓮司 小林聡美

原作：角田光代「紙の月」(角川春樹事務所刊) 監督：吉田大八 脚本：早船歌江子 制作プロダクション：ROBOT 製作：「紙の月」製作委員会 配給：松竹 kaminotsuki.jp

11.15(Sat)公開

# 直木賞作家 角田光代の衝撃のベストセラー 待望の映画化!!

真っ当な人生を歩んでいたはずの主婦が起こした、巨額横領事件。

彼女は何を手に入れ、何を手放したのか—。

2011年に映画化された「八日目の蟬」をはじめ、女性層に抜群の信頼性と人気を誇る直木賞作家、角田光代の長編小説「紙の月」。第25回柴田錬三郎賞を受賞し各メディアから絶賛を浴びたベストセラー小説が、ついに映画化される。

バブル崩壊直後の1994年。夫と二人暮らしの主婦・梅澤梨花は、銀行の契約社員として外回りの仕事をしている。気配りや丁寧な仕事ぶりが上司や顧客に評価され、何不自由ない生活を送っているように見えた梨花だったが、自分への関心が薄い夫の間には、空虚感が漂いはじめていた。そんなある日、梨花は年下の大学生・光太と出会う。光太と過ごすうちに、顧客の預金に手をつけてしまう梨花。最初はたった1万円を借りただけだったが、金銭感覚と日常が少しずつ歪みだし…。

メガホンをとるのは、昨年の日本アカデミー賞で最優秀作品賞を受賞した傑作『桐島、部活やめるってよ』を送り出し、次回作が熱望されていた鬼才、吉田大八。一人の女性が、聖と悪の両面を抱えながら墜ちていく様子を、独特の映像センスとテクニックを駆使し、スピード感をもってスリリングに描き出す。

主人公・梅澤梨花を演じるのは、今や日本を代表するトップ女優として舞台・映画・テレビと八面六臂の活躍を見せる宮沢りえ。梨花の心の揺らぎを、繊細かつ大胆に表現した。相手役となる光太には、近年活躍が目覚ましい若手実力派の池松壮亮。そして、銀行の先輩事務員を小林聡美、窓口係を大島優子が演じるほか、田辺誠一、近藤芳正、石橋蓮司と、重厚で豪華な共演陣が集結した。

日本映画界最高峰のコラボレーションで仕掛けるノンストップ・サスペンス。  
世界を挑発する極上のエンターテインメント作品がついに誕生する。



11.15(土)全国ロードショー